

■田村剛 たむらつよし 帝国議会始・1890＝	造園家、造園学者、林学者。日本の国立公園行政で指導的役割をはたし、“国立公園の父”とよばれる。 岡山県倉敷市で次田家に生まれ、 まもなく田村家の養子となる。 日清戦争始 ・1894＝ 4歳： Bushidou ・・1899＝ 9歳 ： 教科書疑獄・1902＝12歳：岡山中学校に入学、 日露戦争終 ・1905＝15歳： 韓国反日暴動 1907＝17歳： アヲキ 創刊・ 1908＝ 18歳 ：卒業し、 第六高等学校に入学 ， もともと数学が得意で、その道に進むと考えていたが、 大逆事件判決1911＝21歳：初めて、自然の風景地を公園にという請願・建議が帝国議会でなされた年、夏休みで、富山高岡の養家にいた際、 新聞社が募集していた立山登山に参加、大自然に感銘を受けて、進路が決まり、 明治天皇没 ・1912＝22歳：卒業すると、 東京帝国大学農科大学林学科に進学。 本多静六教授の薫陶を受け、1年先輩の上原敬二と切磋琢磨、 21ヶ条要求・1915＝25歳：卒業し、上原敬二らと明治神宮造営局で神宮内外苑の造営に携わる。 ロシア革命 ・1917＝ 27歳 ：富士山北麓調査を実施。 本格政党内閣1918＝28歳： *名著「造園概論」を刊行、アメリカの国立公園を紹介し、“国立公園”“自然公園”という語を定着させる。 ベルサイユ条約 ・1919＝29歳：著書「実用主義の庭園」「庭園鑑賞法」。東京帝国大学農学部実科講師となり、本多静六教授の“景園学”の講義の一部を担当。同年発足した文部省の外郭団体である生活改善同盟会庭園部門特別委員就任。 大暴落・・・・1920＝30歳：「日本庭園の発展に就いて」で林学博士の学位を取得。林学科造林第二研究室に造園学教室を設置し、教育者として、造園学を林学科のほか建築教室、農学部園芸学講座でも講義を持ち、多くの後進を育てて行く一方、 公園行政を担当する内務省衛生局から白羽の矢を立てられて、保健課嘱託になり、国立公園の16調査地について調査を開始。それまでは、江戸時代からなじみのある風景が国立公園に相応しいとしていたが、 原敬首相暗殺 1921＝31歳：著書「文化生活と庭園」。衛生局より「現代都市の公園計画」。本多静六と「氷川公園改良計画」、 水平社結成・1922＝32歳：上野公園での「平和記念東京博覧会生活改善同盟会住宅庭園案」。 内務省嘱託をいったん辞し、欧米の国立公園事情を視察して、 関東大震災 ・1923＝33歳：「家庭に必要な庭園の知識」。この年の帝国議会で初めて、国立公園16調査地が示される。 護憲三派圧勝1924＝34歳： 帰国すると、価値観に変化が生じ、国立公園の制定趣旨に関しては、自然保護派と対極の、国民に公開し利用をはかるという立場を採るようになる。関東大震災の影響で、国立公園の議論は一旦打ち切られるが、自ら年2、3か所の調査地の調査を続け、 治安維持法・1925＝35歳：著書「造園学概論」、 円本時代始・1926＝ 36歳 ：著書「登山の話」。「県立榛名公園計画」。山林局より「北米合衆国国有林の休養施設概況」、 金融恐慌・・・・1927＝37歳：この頃、春日時太郎と「大正天皇行幸記念園」（現在日光植物園内大正記念園）。「妙高大公園計画」。 尾瀬ヶ原水設計画に対する尾瀬保存期成同盟結成に参加して代表に就任するなど、自然保護運動を起こすなか、国立公園制定の必要性も高まり、内務省に復帰、「国立公園」頒布を主導、引続き、本多静六の支持のもと、 共産党事件・1928＝38歳：著書「台湾の風景」。 16調査地全ての調査を完了するが、この間、台湾調査の帰途に事故で片足を失うも、 世界恐慌 ・・・・1929＝39歳：著書「森林風景計画」「世界造園図集」。 国立公園協会を設立、常務理事に就任し、啓蒙普及活動を開始。 海軍軍縮条約1930＝40歳：著書「実用庭園学 植物篇」「現代庭園の設計」。衛生局で、14か所に整理された「国立公園候補地概要」が作成され、「国立公園候補地地図」が発行される。 政府の国立公園調査会が設置され、 満州事変 ・・・・1931＝41歳： *土地所有を問わない日本独自の国立公園法が成立するに至る。 五一五事件・1932＝42歳：「国立公園ノ選定ニ関スル資料」をまとめる。 国際連盟脱退1933＝43歳：定員も確保され、内務技師に任命される。 帝人疑獄事件1934＝44歳：国立公園の第一次指定、 芥川直木賞始1935＝ 45歳 ： 二二六事件・1936＝46歳：第二次指定によって、 12の国立公園が誕生。日本造園学会会長となり、以後、3期続ける。 日中戦争始 ・1937＝47歳： 日米開戦 ・・・・1941＝51歳： ・・・・・・・1942＝52歳：著書「国土計画と休養地」、 創価学会検挙1943＝53歳：著書「国土計画と健民地」、 年金+総武装 1944＝ 54歳 ： 敗戦 ・・・・1945＝55歳： 極東裁判決・1948＝58歳：著書「国立公園講話」、 三大事件・1949＝59歳：「別府国際泉都計画」「草津温泉地計画」、 独立回復 ・・・・1951＝61歳： *尾瀬保存期成同盟が日本自然保護協会に改組され、初代理事長に就任。国際的にも信頼され、国際自然保護連合（IUCN）からの誘いで、日本として国立公園協会が初参加する。 メデー事件・ 1952＝62歳：師本多静六が死去。 テレビ放送始・1953＝ 63歳 ： 国民に公開し利用をはかるという立場を鮮明にした「佐世保市観光施設計画」「西海国立公園候補地自然公園計画調査」、 なべ底不況・1957＝67歳：以後13年、自然公園審議会委員。 インサントーマン・1958＝68歳： 国際自然保護連合（IUCN）国立公園委員会委員となり、積極的に活動、のち、国際自然保護連合名誉会員。 美智子妃・・・・1959＝69歳：「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」、 安保闘争 ・・・・1960＝70歳： 財団法人になった日本自然保護協会の理事長、 タイタイ病始・1961＝71歳：著書「世界の景観」。「皇太子殿下御結婚記念大噴水」、 全国総合計画1962＝ 72歳 ： 第1回世界国立公園会議に出席、「海中公園・海中保護区の設定に関する勧告」に啓発され、研究開始、 TV宇宙中継始1963＝73歳：監録褒章、 東京テレビタ 1964＝74歳：「作庭記」を出版、平安時代に書かれた日本最古の庭園書「作庭記」研究に先鞭をつける。 日本自然保護協会に海中公園調査委員会を設け、 大学紛争始・1965＝75歳：勲三等旭日大綬章、 美濃部都知事1967＝77歳： 財団法人海中公園センターを設立し、理事長。 大阪万博・・・・1970＝78歳： 政府は自然公園法を改正して、海中公園を法制化するに至る。 ドルショック ・・・・1971＝ 81歳 ： 夢はさらに広がり、西太平洋国際海中公園システム構想を発表するが、叶わず、 田中角栄逮捕1976＝86歳：勲二等瑞宝章、 革新大敗北・1979＝89歳： 没した
--------------------------------------	---

インターネットWikipedia・日下部甲太郎「国立公園の父 田村剛」・水内佑輔・古谷勝則「1930年代の国立公園の剪定の経緯と田村剛の評価の枠組み」、